

JLT210 コミュニケーションのための日本語教育論

2年 1,2クォーター

担当教員 桑原 陽子

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング 要素を含む

単位数 2

曜日・時限 金曜日・1時限

授業概要

第2言語学習・第2言語教育の観点から日本語をとらえなおし、コミュニケーションを重視した日本語非母語話者（non-native speaker）に対する日本語学習支援の方法を学ぶ。講義では、日本語母語話者（native speaker）どうしのコミュニケーションの観察と分析を行い、より自然なコミュニケーションを目指した日本語指導のために何が必要かを考える。さらに、日本語を母語としない日本語学習者が、日本語によるコミュニケーションを行う際に生じる問題とその原因について学ぶ。これらの活動を通して、自身のコミュニケーションのあり方を客観的にとらえ、それをわかりやすく日本語学習者に伝えて彼らの効率的な学習を支援する方法を学ぶ。

到達目標

- (1) 自分自身の言語使用を観察し、自身のコミュニケーションスタイルを他との比較によって客観的にとらえる。
- (2) 異言語間だけでなく、日本語母語話者の間でも、どのような言語表現を用いて目的を達するかには違いがあることを理解する。
- (3) 自分自身の言語使用および日本語母語話者の言語使用の傾向について、非母語話者に対してわかりやすく説明できる。

先修科目

「日本語学概論」を履修することが望ましい。

教科書・参考資料等

教科書は指定しない。授業中にプリントを配布する

- 参考資料 (1) 『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』 『みんなの日本語初級Ⅰ翻訳・文法解説英語版』 スリーエーネットワーク
- (2) 『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』 『みんなの日本語初級Ⅱ翻訳・文法解説英語版』 スリーエーネットワーク

授業の方法

この授業は担当教員の講義形式だが、ペアワークやグループ討論を取り入れる。

成績評価

毎時間15分程度を使って、日本語使用についてのクイズを行う。

成績

クイズ40% 課題60% (グループワークを含む)

授業スケジュール

第1回:概論：非母語話者の日本語能力の指標

非母語話者の日本語能力の指標にはどのようなものがあるのかを学ぶ。

第2回:概論：非母語話者のための日本語学習用教科書

代表的な日本語学習用教科書を取りあげ、その教科書の構成とそれを支える外国語学習理論について学ぶ。

第3回:話す教材の検討1:「自己紹介」

外国語学習の最初に学ぶ「自己紹介」には、どのような文型・表現の学習が必要かを考える。その際に、自己紹介のスタイルが多様であることを理解し、それぞれのスタイルの自己紹介ができるようになるためにどのような練習が必要かを考える。

第4回:話す教材の検討2:「趣味」

趣味について話している時、自分がどのような語彙・表現、文型を使っているのかを知る。次にそれらの語彙・表現、文型について、どのように取捨選択・整理して学習者に伝えればわかりやすいかについて考える。

第5回:初級文型の検討1:「田中さんは教室にいます」

初級前半で学ぶ文型をとりあげ、この文型について学習者は何を知る必要があるのかを考える。特に「教室に田中さんがいます」との違いを例に、文型のとらえ方について考える。

第6回:初級文型の検討2:「ご飯を食べています」

初級前半で学ぶ動詞の活用形の代表である「て形 (te-form)」をとりあげる。いわゆる現在進行形である「～ています」が実際にはどのような場面で使われるのかを分析し、文型と実際の運用との違いについて考える。

第7回:初級教材の検討3:いわゆる敬語表現

初級後半で学ぶ「敬語表現」をとりあげ、自身の敬語使用について振り返り、初級レベルの学習者が学ぶべき敬語の範囲について考える。さらに、相手への配慮を表す「配慮表現」にはどのようなものがあるのかについて学ぶ。

第8回:話す教材の検討3:依頼

依頼する場合、相手と依頼内容によって使われる表現がどのように変わるのかを考える。また、目的を達成するために、依頼という行為がどのように構成されているのかを考える。

第9回:話す教材の検討4:謝罪

謝罪する場合、相手とその謝罪内容によって、表現がどのように変わるか、謝罪という行為がどのように構成されているのかを考える。また、謝罪する必要の有無に関する個人差 (文化差) について考える。

第10回:初級文型の検討3:plain style と polite style

plain style と polite style の形の違い、使われる場面・状況の違いについて学ぶ。さらに、会話場面において、自分が両スタイルをどのように使い分けているのかを振り返り、両者の使い分けについて、非母語話者に対してどのように説明することができるかを考える。

第11回:書く教材の検討1:断り

メールの書き方の基本的なルールについて学ぶ。さらに、メールで依頼を断る場合に、断りの内容、相手との関係に応じて、どのような表現を用いてどのような構成で書くのが適切かについて考える。特に、話す場合との表現の違いについて理解を深める。

第12回:文字・語彙学習について考える

日本語の表記に使われる文字について、学習の点から考える。まず、どの文字から学ぶべきか、発音と文字の学習が同時であることの難しさとそれを克服するためにどうすればよいかを考える。さらに、効果的な漢字学習、漢字語彙学習のあり方について自身の経験をふまえて考察する。

第13回:教材の検討:「病院」

具合が悪くて病院へ行った時に、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4つの技能として何が必要かを考える。

第14回:グループワーク:課題の決定と作業

第15回:グループワーク:まとめ

事前・事後学習

- ・ 予習: 毎回次週の講義内容について予告するので、関連資料を調べておくこと。
- ・ 復習: 授業内容を復習し、次週までに疑問点を整理しておくこと。